

お城だより

2007年10月 No.15

編集・発行／鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会
住所／〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15

読売福岡ビル7階

TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

HPアドレス：<http://fukuokajokorokan.npg.jp/>

E-mail：fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷／(有)セブンプリンティング



下の橋・大手門

福岡は、古来から大陸との交易の窓口であり、今後とも、歴史と文化の薫り高いまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

また、福岡城跡のある舞鶴公園や、西側に広がる大濠公園は、誰もが認める都市のオアシスです。自然の光に目映く照らされた大濠の水面には、その昔、福岡城の雄姿も映し出されていたことでしょう。都心にありながら、四季を通じて私達を優しく包むこの貴重な空間は、市民共有の財産であり、重要な観光資源にもなっています。「鴻臚館・福岡城跡」を次世代に受け継ぎ、将来に向けてどう活かしていくのか、全国から取組が注目されています。

唯一の迎賓館として栄えた「鴻臚館」跡もその一つです。現在、福岡市では、在りし日のその姿を求め、福岡城跡と合わせて発掘調査を進めています。昨年度の調査では、福岡城三の丸武家屋敷の建物跡等を確認しました。黒田長政公が築いた400年前の歴史と文化の香りあふれる福岡城の姿が新たな輝きを増して蘇りつつあり、今後の調査へ期待が膨らみます。



福岡市には、国宝の金印に代表されるように、国外に誇れる先人からの歴史的贈り物があります。古代の日本に

「鴻臚館・福岡城跡」を
次世代へ

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会 顧問

福岡市長 吉田 宏

福岡城と天守閣を問う!!

9月23・24日、よみうりプラザにおいて「福岡城・黒田五十二万石の歴史と観光展」を開催いたしました。

展示内容は福岡城・黒田藩の出城六端城・黒田藩の支藩秋月城・黒田藩ゆかりの中津城等を写真や絵画で分かりやすく解説紹介いたしました。また、



23日には福岡城の現地案内も実施しました。イベントの参加者は百五名でしたが11月20・22日にも「福岡城・黒田五十二万石の歴史と黒田二十四騎展」(アクロス福岡・二階)を予定いたしておりますので会員多数の方々のご参加をお願い申し上げます。

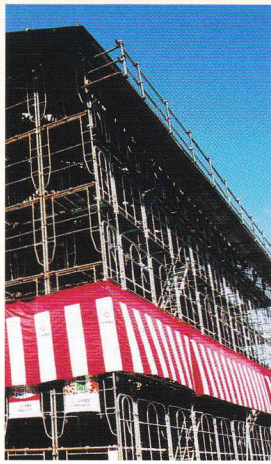


福岡城下の橋・大手門 棟上げ式挙行

観月の宴の翌日、数年前から調査・研究を重ねてやっと福岡城修復再現工事に着手することとなった。初めての工事と位置づけられる場内である下の橋大手門が本格的な二層造りの矢倉型の門として、大きな覆屋の中で棟上げ式が挙行された。福岡市教育委員会をはじめ市議会議員や地域の役目に加え我々福岡城を支援する当会をはじめ黒田家ゆかりの方々と共に賑々しく開催された。

もち米二俵を紅白の小餅にまるめ周辺の方々約二百名余の人々に「餅まき」を行った。その祝いの背景に博多古謡那能津会社中によって恒例の三味伴奏で祝い唄を添えてくれた。(歌詞参照)

下記の二曲の唄を、博多那能津会の三味囃子で当日餅まき行事として、福岡恒例の祝唄に因み、式典会場で斉唱しました。



筑前今様(黒田節) 替詞

四方にひろがる 舞鶴の
西の要や 渦身なる
荒津の山や草ヶ江を、
守り支える大手門

上・下揃う 門構え
福・博広がる楽市の
栄え求めて十二代
若むす古城や槌の音

こ、平成の秋空に
四百余年の今よりは
四方のお濠にその影を
天守を寫し語りたや

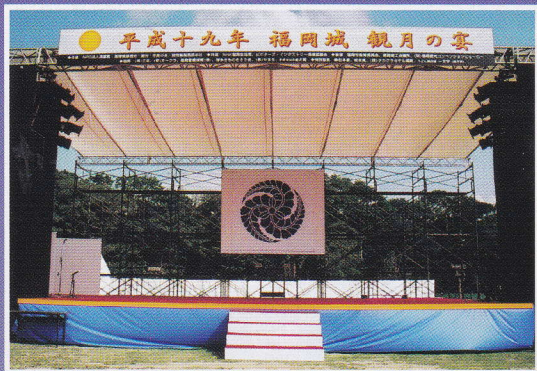
棟上げ式用「祝いめでた」

祝いめでたナ 幾年ぶりに幾年ぶりに
黒田の城に棟が建つ
エイイショウエ エーイショウエ
ショウエ ショウエ
ア、シヨンガネエ、アレワイサソ
エサーソエー シヨンガネエ

さても見事な大手の門よ、大手の門よ
二層に重なる下の橋
(以下囃子ことばは同じ)

こちらのお城は黒田のお城 黒田のお城
四百余年の 福の里
(以下囃子ことばは同じ)

平成十九年 福岡城 観月の宴



舞台全景



会場への道しるべ



開会のごあいさつ
石井理事長



月よりの使者かぐや姫



福岡城の観月の宴 一八〇〇名の賑わい

今年も去る九月二十七日（木）福岡城西広場の観月の大きい広庭に仲秋に名月が昇りました。

本年度福岡城観月会は第五回目になり、すっかり定着した感が生まれて来ました。古城と月の風情は一段とすばらしく、古式に依る月を迎える「五供の義」に十二単衣のかぐや姫・尺八・笛・三味線に筑前琵琶の演奏が更に観月の情感を高めてまいました。

読売新聞西部本社の特約の主催協力に加えてNHK福岡放送局にビクター・インダストリー推進協議会の共催を頂きました。

名月に捧げる郷土芸能の数々、出演団体約二十チーム二百名の方々によるすばらしい演技が終礼行事の午後九時まで続きました。

多くご協賛や観月券をお求め頂きました方々に、紙上を借りて厚く御礼申し上げます。



菊酒大杯



読売新聞西部本社常務取締役 吉谷正人氏



月見の舞



九州女子高等学校津軽三味線部



月を背に記念写真!!



筑前今様

「観月の宴」に特別協賛 誠にありがとうございました

特別協賛会社 (五十音順)

- うどん黒田屋 一文字
- 株式会社 如水庵
- (株)タカクラホテル福岡
- 株式会社 峰松本家

恒例の「福岡城観月の宴」を9月27日に「月を迎える」「月の宴」という企画のもと舞鶴公園西広場にて開催いたしました。

幸い晴天に恵まれて、舞台の右手より木の間をぬって煌煌と輝く月が昇りました。この素晴らしい光景の中で、粛々と宴が進行いたしました。今回始めて参加された方のコメントは、「こんなに素晴らしい催しなのに今まで参加しなくて、来年はぜひ参加します」といううれしい言葉をいただきました。

神様になったお綱さん

— お綱門(4) —

歴史研究家 大隈 和子

一年かかってしまいました「お綱門」のお話、ようやく今回で終わりです。お綱さんのその後、です。

前回はお綱さんの夫の屋敷跡に建った長宮院というお寺に、お綱門が移築されていたけれど、昭和二十年の空襲で長宮院も門も全て焼けてしまったとお伝えしました。実はその長宮院には、お綱さん母子も祀られていたのです。

しかしそのお位牌は運良く戦時中、疎開させていたので、焼けずに済んだそうです。それは良かったのですが、長宮院自体が焼けた後、結局、再興されなかったのも、お綱さんをどこで祀ろうかという話になりました。近くにあるお寺といえば、黒田家ゆかりの圓應寺さん。そこにお願いしようかという話もあったそうですが、長宮院とは宗派が違うということで、なるべく同じ真言宗のお寺が良か



お綱さんの墓

ろうと捜して、真光院というお寺に引き受けてもらうことになったそうです。真光院は圓應寺の境内の西北で隣り合っていました。戦後の区画整理により簀子公園になってしまいましたので、西隣の東湊町に移転しました。もちろんお綱さんも一緒でした。

そして、怒みを飲んで亡くなったお綱さんは祟ると恐れられ、男女の性愛を呪詛をするものとして祀られていたが、次第に愛情のもつれから家庭や男女を護ってくれる守護神に昇華し、家庭円満や良縁祈願、水子供養などを願う人々のお参りが続きました。

しかし「この真光院も、いつしか都市化の波に埋没してしまいました。」と、最近発行の本にありました。エッ、真光院、なくなったの？ エーッ「お綱さんのその後」これで終わり？ と残念に思っていたところ、真光院はなくなったのではなく、糸島の方へ移転したらしいということがわかりました。せめてかつての真光院のことをお訊ねしようと電話した圓應寺のご住職からでした。それでも一度、エーッということになり、調べると確かに二丈町に移転されていました。

深江の駅から西へ、二十分くらい歩い

た高台に立派な真光院が建っていました。お綱さんも、お綱大明神として境内の一角に祠が建てられ、母子のお位牌が大事に祀られていました。前述したように今では家庭円満や良縁を願って参って来られるそうで、以前は簀子地区で行っていたお綱大明神の夏祭りも、お寺に受け継がれ、今も八月に供養の夜祭りが催されているということでした。

お綱さん母子のお位牌はこれで、めでたしめでたしですが、もう一つ、お綱さんのお墓といわれるものがあるのです。箱崎です。

詳しく言うと、県庁の先の馬出小学校前交差点をそのまま先へ進み、N T Tのビルの次の角を右へ二、三軒入った所の左手にある、家と家とに挟まれた細い細い路地の突き当たりです。路地の入口の右手の電柱に「芭蕉の枯野塚」の表示板が取り付けられているのが、目印です。本当に一度で見つけるのは至難の狭い路地の奥です。入って行くと「圓通院義操妙綱大姉」と刻まれた大きな石碑が立っています。裏には「寛永七年三月三日 俗名 麻井おつな」の文字。お綱さんが住んだ下屋敷は馬出にあったことになっているので、お墓も馬出に建てられたのでしょうか。ただ以前は近くの「お綱ヶ池」にあったのを、池の埋め込みに伴って、現在の場所に移したという話です。

碑の手前右には大正十五年建立の「三百年祭費其他寄附者」の石碑も立っています。お綱さんの話は、黒田の殿様にも関係する話ですから、江戸時代こんな立派なお墓を建てることは憚られた

でしょう。とすると、現在立つ墓石の建立時期は三百年祭寄附者の碑が手懸りになるのではないのでしょうか。

お墓さんの側には、子供二人の墓も置かれ、もちろん、道標にあるように、元禄十三年（一七〇〇）頃、建てられた「芭蕉翁之墓」、明治二十六年（一八九三）建立の「旅に病て夢は枯野をかけめくる」の芭蕉の句碑その他が所狭しと並んでいます。因に芭蕉関係の石碑群は福岡県の文化財に指定されています。

お綱門のお話から、その後日譚を訪ねる旅に出てみました。途中までは先人の道案内で進れましたが、あと一步がなかなか進みません。まあ、伝説だから、矛盾があるのは当たり前、追求しても無理かなと思いつつ問い合わせの電話、そこから位牌の現在や写真の門のことが明らかになりました。これもお綱さんの引き合わせかなあと。お話の世界のお綱さんが、後世の人々の思いに命を吹き込まれ、緑の地で生きづいていることを知り、暖かい心で旅を終えることができました。長い間、ご愛読ありがとうございました。



お綱大明神 於真光院

福岡城の西側に位置づける大濠の一面にある福岡武道館で去る十月六日、正式に申し述べますと「愛洲影流繼承福岡黒田藩傳柳生新影流兵法柳心会」第十四代 長岡源十朗鎮廣宗家による宗家繼承十周年記念の演武大会が開催された。久々に礼作法にのっとりた古武道の様々な演技と黒田家ゆかりの芸能披露も加わって盛大に開催された。

真劔を使つての数々な型の披露や他流派からの祝賀演武等、黒田家御当主の子息、長高氏外、各界の知名士も大勢ご参加頂き「柳生新影流」の古武道の真隨を味わつた。



2007年(平成19年)10月9日(火曜日)
読売新聞より

[illegible]

古	久	木	尾	緒	大	安	
賀	保	原	崎	方	久保	土	
政	良	利	賢	裕	征	梢	
光	三	明	仁	只	太郎	俊	
<hr/>							
渡	武	藤	野	中	多		
辺	藤	川	田	村	田		
正	初	由	淳	昌	雅		
則	義	美	嗣	平	信		

一般會員（個人）

20
名

井上	江島	遠藤	近江	尾崎	小山田	川庄	亀川	窪佳代	茂山
久徳	英輔	大和	弘治	秀司	千秋	正男	フサ子	代子	正樹
島松	冨田	長尾	中島	平松	広田	福田	藤井	藤田	安武
尚宏	礼子	マ子	正和	扶二雄	節子	節子	篤孝	正温	ヨシ子

一般會員(団体)

3 団体

吟道宰都館 筑前今様二川流
福岡県護国神社
(株) 松屋菓子舗

正會員更新會員（個人）

29
名

秋竹	アサヨ	大塚京子
秋竹	ヤチヨ	大塚正子
阿比留啓子	緒方世喜子	
阿比留哲	小河弘之	
石蔵利光	小畠郁子	

正會員更新會員(団体)

10
団体

河東	桑原	齋田	坂口	末岡	筑紫	仲上	長岡	中島	中村
俊也	暉子	耕作	博幸	千代洋	紀政	鎮廣	敏行	旭園	
西川	西高辻	西野	仁田	長谷川	福澤	宮川	森川	吉田	
芳泉	信良	信子	辰治	賢輔	俊章	次郎	寿樹		

一般會員更新會員(個人)

64
名

大成建設(株) 九州支店
(株) タカクラホテル福岡
藤香会
(有) ブレネット
(株) 山口油屋福太郎

一般會員更新會員(団体)

4 団体

永	中	長	鳥	徳	谷	田	滝	高	陶	鈴	塩	新	佐	坂	権	古	栗	栗	熊	木	神	川
瀨	野	谷	越	永	口	坂	島	杉	山	木	出	戸	藤	口	藤	賀	原	原	谷	下	田	下
和	多	仁	輝	良	憲	大	哲	重	秀	襄	峰	順	俊	英	宜	行	正	紀	佳	史	典	睦
子	美	美	彦	子	由	藏	也	行	昭	二	生	子	一	治	子	也	富	美	子	郎	子	彦
脇	米	吉	吉	山	牟	水	水	水	三	馬	町	藤	福	深	平	半	原	林	橋	橋	中	永
野	倉	永	田	本	田	摩	迫	上	池	奈	田	原	田	沢	木	田	野		本	本	村	松
豊	賢	慎		聰	勝	ち	裕	千	文	友	史	ミ		一	俊	玲	勇		雄	史	昭	芳
子	次	也	誠	子	則	ず	幸	世	枝	道	子	子	弘	夫	二	子	二	誠	司	代	子	子

(有) 滝川印刷所
博多那能津会
フレンドカンパニー
(株) 読売エージェンシー

「福岡城市民の会」では、新規入会の皆様と会員を更新された皆様が該当の「お城だより」の誌面に紹介しております。No.14 で次の方が掲載されませんでした。久保 良三氏、稲益 眞昭氏、古賀 行也氏を No.15 で掲載させていただきましたのでご了解くださいますようお願い申し上げます。